



月が木星に接近

天空が広がるうぶやまの高原には春を呼ぶ、暖かい風が吹きはじめました。陽が長くなり、桜の花も咲き始めました。

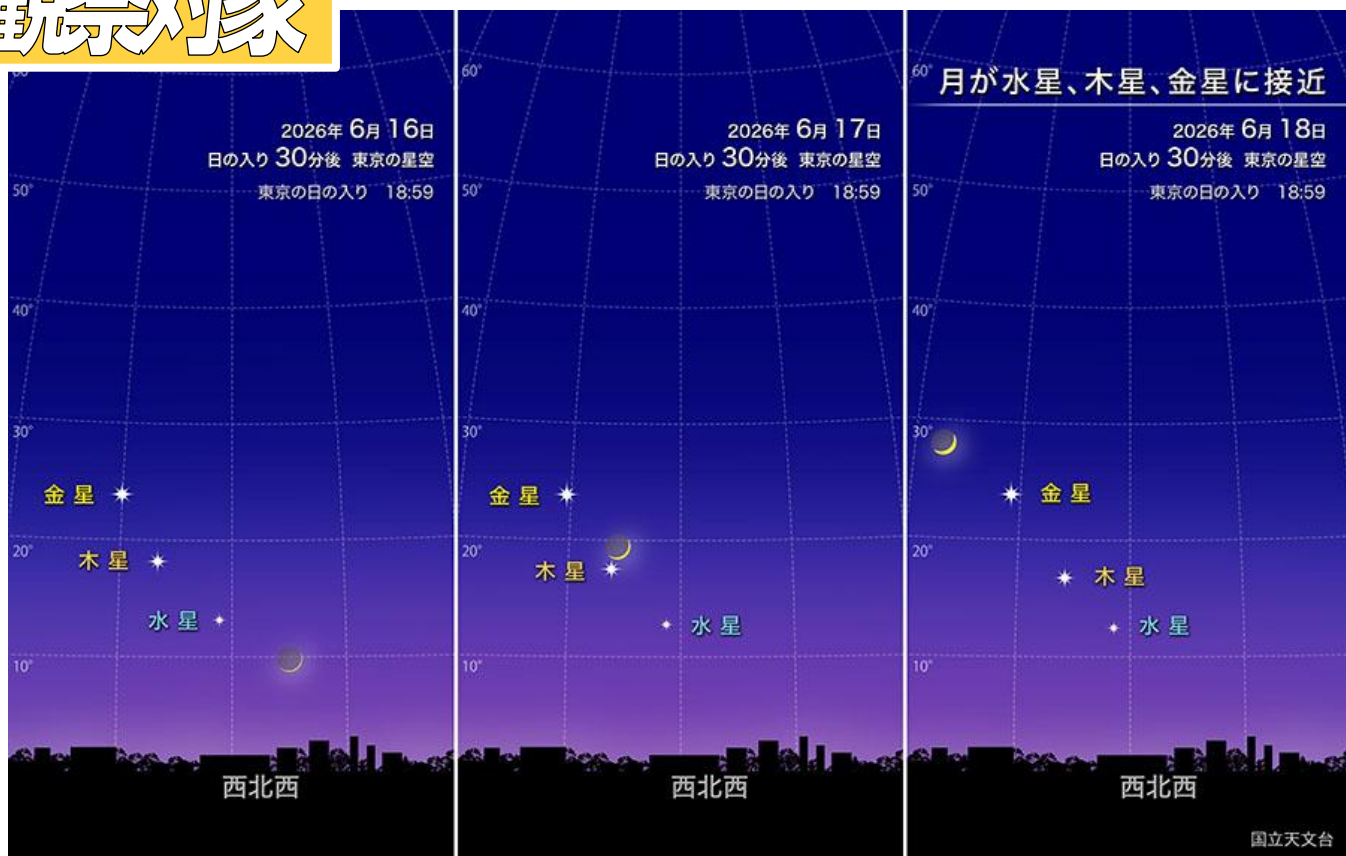
指針コラム (天体情報・見どころ)

6月の星空情報の第4弾は6月16日(火)~18日(木)に月が水星(0.2等級)、木星(-1.8等級)、金星(-4等級)に接近する天文現象です

6月の夕方の西の空には、明るい金星や木星画家が雪、東方最大離角を迎える水星も加わって賑わっています。16日から18日は、そこに細い月が並びさらに賑わいを見せてくれます。

16日は、東方最大離角となる水星と月齢1の糸のように細い月が西の低空に見えます。どちらも見つけるのが難しいかも知れませんが、西の空開けている場所で観察に挑戦してみてください。月や水星の見える方向や高さを事前に調べ、双眼鏡で確認するのも良いかも知れません。双眼鏡を使う際は太陽を見ないように、注意してください。(次ページへ続く)

観察対象



17日は、月齢2の三日月が木星に近づきます。明るい木星と三日月が並ぶ様子が見栄えのすることでしょう。

18日は、月齢3の細い月が金星より高い位置に見えます。高い方から月、金星、木星、水星と斜めに並ぶ様子を観察することができます。見つけやすい天体から目線を少しずつ降ろしていくことで、水星も目にとまりやすいかもしれません。

クレジット 2026 国立天文台(NAO)